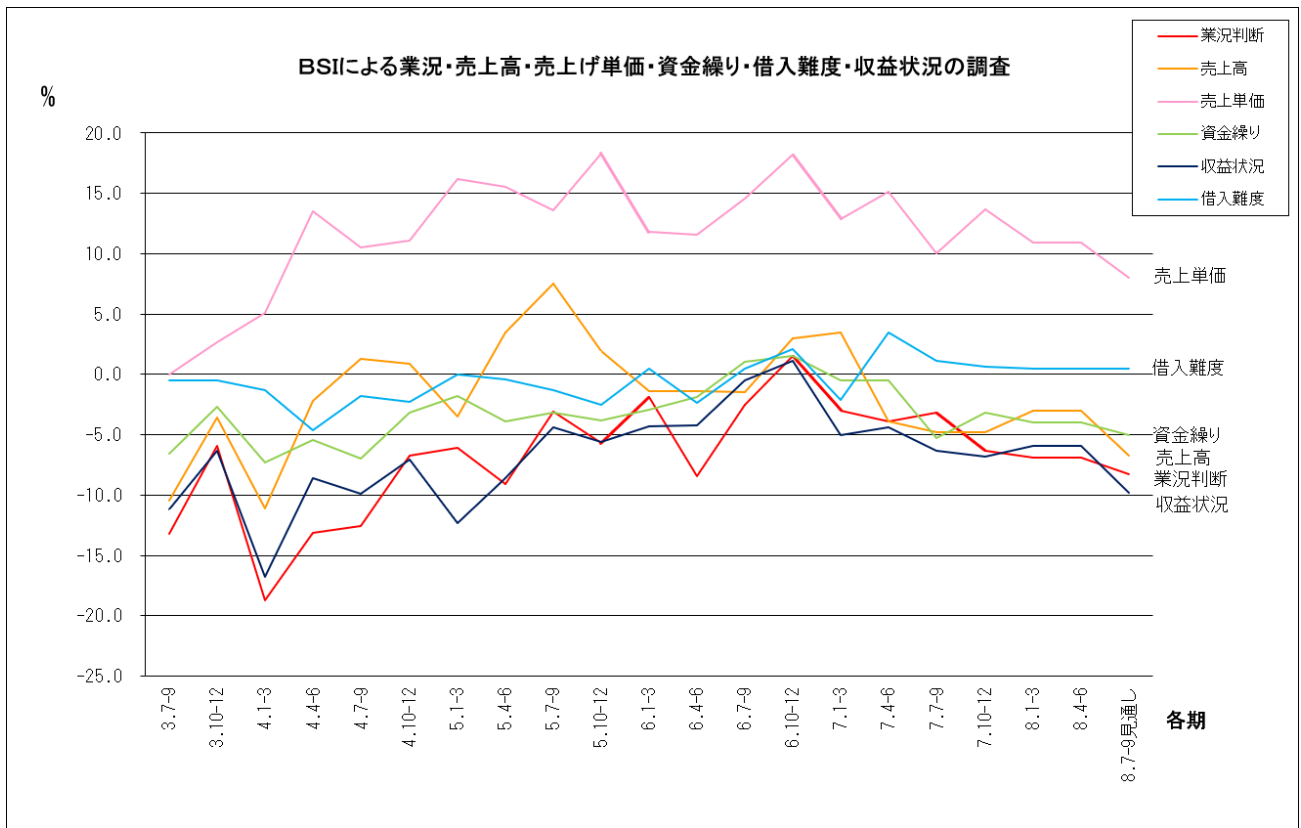


中小企業景況調査結果報告書

令和8年4～6月期（令和8年7～9月期予測）

—鳥取県下4商工会議所の調査より—



前年同期比*（ ）内は令和7年4～6月期の数字

	回収数	売上高	売上単価	資金繰り	借入難度	収益状況	業況判断
全産業合計	102	4.5 (-3.9)	20.1 (15.1)	-3.5 (-0.5)	0.0 (3.5)	-3.9 (-4.4)	-5.0 (-3.9)
製造業	26	9.7 (-3.7)	17.3 (16.7)	-7.7 (1.9)	-1.9 (5.6)	1.9 (-3.7)	1.9 (-3.7)
非製造業	76	0.7 (-4.0)	21.1 (14.5)	-2.0 (-1.4)	0.7 (2.7)	-5.9 (-4.7)	-7.4 (-4.0)
(建設業)	23	0.0 (-4.4)	19.6 (8.7)	4.4 (2.2)	8.7 (6.6)	-8.7 (4.6)	-6.5 (4.4)
(卸売業)	20	15.0 (5.0)	35.0 (30.0)	-5.0 (-2.5)	0.0 (2.5)	-7.5 (-2.5)	-7.5 (0.0)
(小売業)	20	0.0 (-16.7)	15.0 (16.7)	-5.0 (-6.7)	-5.0 (-3.4)	0.0 (-23.3)	-7.9 (-17.9)
(サービス業)	13	-7.7 (-2.8)	11.6 (2.8)	-4.2 (0.0)	-4.6 (3.2)	-7.7 (-2.8)	-7.7 (-8.3)

来期(令和8年7～9月期)見通し*（ ）内は前年同期の数字

	回収数	売上高	売上単価	資金繰り	借入難度	収益状況	業況判断
全産業合計	102	-6.4 (-1.5)	14.7 (8.3)	-4.5 (-2.5)	-1.5 (0.5)	-11.3 (-4.9)	-8.8 (-3.0)
製造業	26	1.9 (5.6)	21.2 (9.3)	-9.6 (-3.7)	-3.9 (3.7)	-5.8 (1.9)	-1.9 (0.0)
非製造業	76	-9.2 (-4.1)	12.5 (8.0)	-2.7 (-2.1)	-0.7 (-0.7)	-13.2 (-7.3)	-11.2 (-4.1)
(建設業)	23	-8.7 (-2.2)	4.4 (8.7)	6.6 (0.0)	4.4 (2.2)	-15.2 (0.0)	-10.9 (8.7)
(卸売業)	20	-2.5 (-2.5)	22.5 (17.5)	-7.5 (-2.5)	2.5 (2.5)	-12.5 (-12.5)	-5.0 (-5.0)
(小売業)	20	-12.5 (-10.8)	12.5 (6.7)	-5.0 (-3.3)	-5.0 (-3.4)	-7.5 (-16.7)	-15.8 (-17.9)
(サービス業)	13	-15.4 (-2.9)	11.6 (-3.0)	-8.4 (-3.3)	-9.1 (-6.7)	-19.3 (-2.9)	-19.3 (-8.8)

* BSI = (上昇・増加—減少・下降) × 1/2 （但し、「上昇・増加」+「横ばい」+「減少・下降」=100）

経営者の業況に対するマインドを反映するもの。(0%は「上昇・増加」と「減少・下降」が同数。「+」は上昇・増加、「-」は減少・下降)

■業況（グラフ参照）は・・・

全産業合計の業況判断はマイナス5.0と前年同期の調査と比べて1.1ポイント悪化しました。製造業で改善が見られたものの、円安などを背景とした長引く仕入れコストの高騰や、価格転嫁に対する取引先の抵抗、消費者の買い控えが利益を圧迫しています。

来期の全産業合計の業況判断もマイナス8.8と、前年同期の見通しから5.8ポイント悪化しており、先行きに対する強い不透明感が数値に表れています。

【対前年同期比】

全産業合計の今期業況判断はマイナス5.0で前年同期から1.1ポイント悪化しました。製造業は1.9と前年同期比5.6ポイント改善しましたが、非製造業はマイナス7.4（同3.4ポイント悪化）と全体を押し下げました。特に建設業はマイナス6.5（同10.9ポイント悪化）、卸売業はマイナス7.5（同7.5ポイント悪化）と大きく悪化しています。一方、小売業はマイナス7.9ながら同10.0ポイント改善するなど、業種間で動きが異なります。

【来期（26年7～9月）見通し】

全産業合計の来期業況判断は、マイナス8.8と、前年同期の見通しから5.8ポイントの大幅な悪化となりました。収益状況は、製造業・非製造業ともに前年同期を下回り、非製造業の収益状況はマイナス13.2（前年同期比5.9ポイント悪化）と厳しさが増えています。円安や物価高騰によるコスト増や、価格競争の激化による収益圧迫への懸念が、全般的な先行きの悪化見通しにつながったとみられます。

■直面している経営上の問題点

- 1位：原材料・仕入れ価格上昇（23.66%）
- 2位：経費の増加（14.83%）
- 3位：売上・受注の減少（12.62%）
- 4位：消費・需要の停滞（12.30%）
- 5位：人手不足（10.41%）

「原材料・仕入れ価格上昇」（23.7%）が首位、「経費の増加」（14.8%）が2位、「売上・受注の減少」（12.6%）が3位と前回と同様で、4位に「消費・需要の停滞」（12.3%）が浮上しました。5位「人手不足」（10.4%）と続き、消費鈍化が顕在化しています。

記述回答では「全ての仕入れコストが円安も相まって大幅に上昇している」（製造業）や「ナフサ不足による資材価格の高騰や供給不足」（建設業）など、コスト増や資材不足を訴える声がありました。「価格改定交渉を行っているが、値上げへの抵抗感は強い」「ほとんどの中小企業は適正価格まで値上げが出来ない」など深刻な影響を危惧する声も出ています。

また、「消費者の財布の紐が固い」との声もあり、価格転嫁に踏み切れない苦悩も浮き彫りとなりました。先行きが見通せず、経営の舵取りが難しい状況です。

■各社からのその他の問題点

- ・鳥取県の東部での公共工事が発注増加（建設業）
- ・補助金など活用したいが人材不足で手が出せない。補助金などを申請代行する業者さんのようなところからの営業電話も多いが信頼できないので商工会から紹介制度などがあると良いと感じます。（建設業）
- ・ナフサ不足により建築資材の高騰や不足しており、利益率の低下、工期遅延リスクが生じている。（建設業）

- ・取適法の対応で減少した現金の回収ができない。営業利益は見た目では確保しているが、現金は増えていない。(製造業)
- ・中東情勢による影響で市場が停滞していると強く感じる。(製造業)
- ・ナフサ不足で資材入荷の予定が立たず、4月～6月は定時操業や休日にした影響で前期より業績が悪化しました。7月になって資材も順調に入って来るようになり、業績は好転すると思います。(製造業)
- ・燃料費、原材料費、包材費等々全ての仕入れコストが円安も相俟って大幅に上昇しており、販売先との価格改定交渉を行っているが抵抗は激しい。今までは値上げが売り上げ増に繋がっていたが、現在では取引が無くなったり消費者の財布の紐が固いために購入の減少に直結するので、近年にない厳しい経営環境である。(製造業)
- ・中小企業の景気回復は不十分であり、価格転嫁が難しく利益率が低迷したままである。(製造業)
- ・物価高騰の中で、大手企業の価格競争による煽りを中小企業は大きく受け販売が低迷している。
弊社も値上げは通るが取引先の販売数量が落ちている為、大きく影響を受けている。市場価格は大手企業が指標となる為、ほとんどの中小企業は適正価格まで値上げが出来ず、賃上げが出来ない現状。その為、大半が賃金と生活費のバランスが崩れ消費低迷に陥っている。そこに社会保険料の上昇も消費低迷を加速させている。この状況で大手企業が強いのでは当然で、コロナや中東問題以前に日本の経済構造に問題があるのではと考えてしまいます。(製造業)
- ・食材の値上げにともない、価格を上げたいと思うが・・・人通りの少なくなっている駅前(サンロード)を考えると悩んでしまう。(サービス業)
- ・部品、完成車の仕入れ価格上昇。(小売業)
- ・売上高の増加以上に、原材料費・人件費・設備維持改修費の上り幅が高い。(サービス業)
- ・商品の入荷遅れ。(卸売業)